

第39回衛生微生物協議会レファレンスセンター等関連会議

HIV関連感染症

(2018.7.5 滋賀県立県民交流センター)

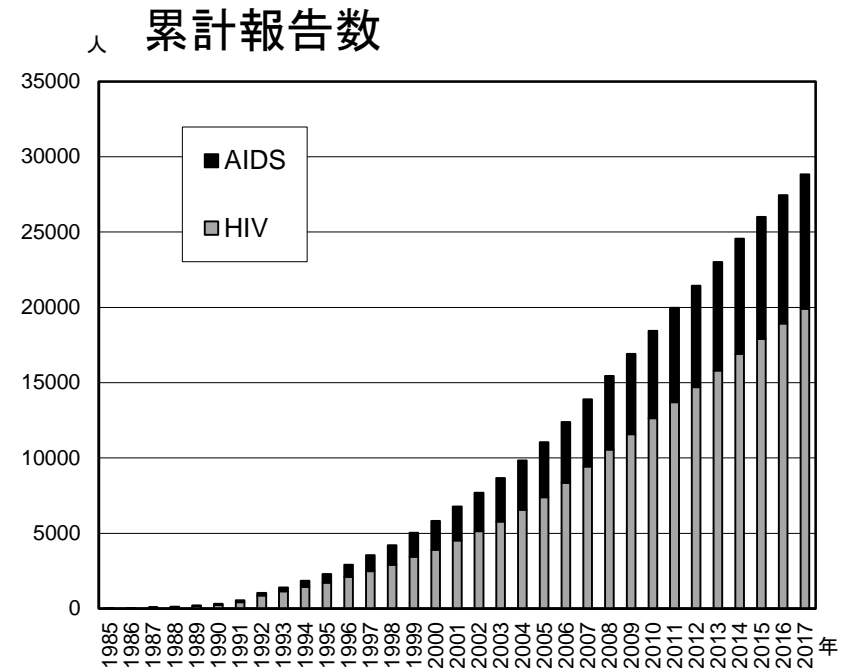
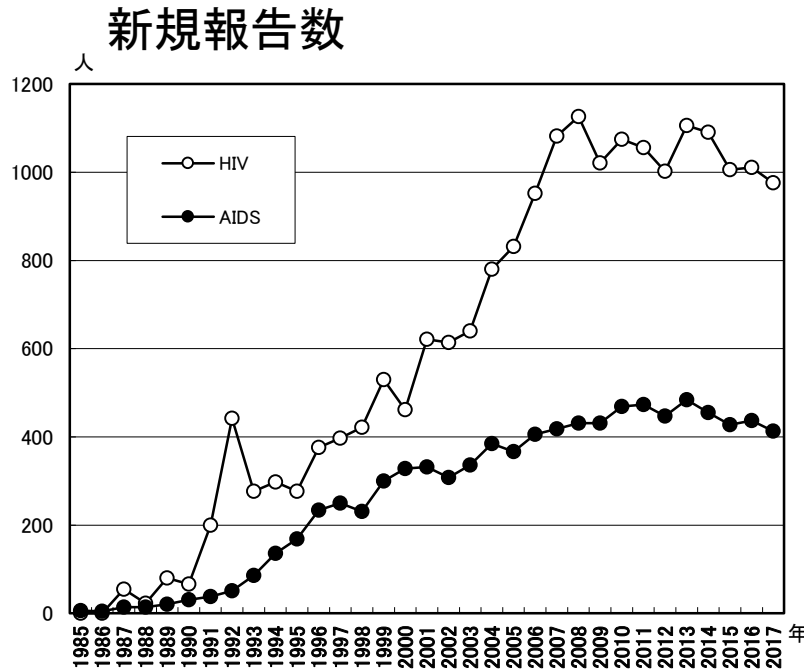
1. 2016年HIV発生動向の概要、および届け出票の改訂に関する
情報提供 (国立感染症研究所エイズ研究センター 松岡佐織)

1. HIV検査マニュアルの改訂案に関する要点の解説
 - 1-1.抗体検査 (東京都健康安全研究センター 長島真美)

 - 1-2.遺伝子検査および精度管理の案内
(国立感染症研究所エイズ研究センター 草川茂先生)

日本国内の年間新規診断数、及び累積報告数

(平成28年エイズ発生動向調査年報)



- 近年の新規報告数は概ねHIV:1,000件、AIDS:500件、合計1,500件で推移。
- 新規報告数に占めるAIDS患者の割合(AIDS比)は約3割。

2017年新規報告数 1389件
(HIV感染者 976件、AIDS患者 413件)

病原体検出マニュアルの改訂に関する要点の解説、 および討議

2018年版の改正点のポイント

- HIV-2の診断について
- 核酸増幅検査(NAT)の実施、および精度管理について

討議内容を踏まえ、最終版(2018年)をHPに掲載致します(8月末予定)。ご参照下さい。

HIV-1 NAT検査用参照品の配布 に関するお知らせ

目的

HIV NAT検査精度管理での活用を目的とし、

- ・ HIV NAT検査用参照品候補検体の配布
- ・ 各施設においてHIV-1コピー数の評価を行うとともに
- ・ 測定結果を比較検討することで

参加施設のHIV-1 NAT検査精度の確認に役立てる。

参加いただける衛生研究所を募集致します。

費用負担、測定方法、結果の報告方法など、詳細をお知らせしますので、参加を検討いただける場合は、感染研エイズ研究センター 松岡(s-matsu@nih.go.jp)までご連絡下さい。

折り返し、ご案内を差し上げます。